

発に努めたい。買い取り制度とは別に、経済産業省、資源エネルギー庁では、民間団体による住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金制度があり、市民及び事業者等には、新しいエネルギー導入に際し利用を促進したい。旧川内市では、平成十三年から二年間太陽光発電システムの導入に補助をしたが、補助が急激に増え廃止した経緯もある。エネルギーのまちとして原子力・火力・風力発電所があるが、新しいものも導入していかなければならない。

天辰地区土地区画整理事業について



持原 秀行

質問 天辰第一地区土地区画整理事業は、平成二十五年事業完了に向け、順調に進捗中であるが、今回、平成二十一年度当初予算に天辰第二地区土地区画整理事業実施に向けた環境影響評価調査費が措置されているが、第一地区に引き続き、第二地区の事業実施に向けた今後のスケジュールは。

答弁 天辰第二地区は事業区域等

を確定はしていない。環境影響評価調査の完了まで四年ほどかかる見込みで、土地の活用や浸水対策などの事業効果を高め、天辰第一地区と重ねて実施できるように努めたい。平成二十一年度に環境影響評価準備書の作成、二十二年度から二十三年度にかけて、環境影響評価書の作成を行い、並行して、二十二年度から都市計画決定の手続きに入る予定としており、土地区画整理法の諸手続についても進めていくことで、二十四年度に事業認可、あるいは事業計画の決定を行い、二十四年度から二十五年にかけて仮換地の指定をし、二十五年に一部事業着手という考えである。



天辰地区

畜産公共事業について



高橋 修二

質問 現在取り組んでいる畜産公共事業は、国県市による高率な補助事業で、事業参加者は少額の負担で事業に参加できる。畜産農家の高齢化により飼養頭数が減っていく中、地域の畜産を守る上で、ありがたい事業である。取組状況と今後の計画はどうなっているのか。また、この事業に取り組むことで、どのくらいの増頭が見込めるのか。

答弁 畜産公共事業は、飼料畑の造成や畜舎整備、機械導入等を行うことにより、肉用牛の増頭による規模拡大、農作業の軽減、粗飼料自給率の向上等を図るもので、畜産農家に有利な補助事業である。本市は県下で唯一、七・五%を負担している。第三川薩地区の事業費は六億円、北薩地区の事業費は十五億円で実施する予定である。北薩地区は、平成二十一年度から測量調査に入り、二十二戸の農家が事業を実施する予定で、甌地域限定の草地林地一体的利用総合整備事業と合わせると、平成二十年

一月一日現在の四千九百二十六頭の生産雌牛が、二十五%程度増頭になる計画である。

葬斎場「やすらぎ苑」エントランス改造について



江畑 芳幸

質問 マイクロバスはエントランスに横付けできるが、大型バスは屋根につかえるため横付けできず、奥で停車し降りるようになっており、雨の日は濡れることもある。また、植栽はさんでの乗降も見受けられる。大型バスが横付けし、通り抜けられるよう、エントランス部の改善はできないか。



やすらぎ苑